

2024年8月7日(水)

老球の細道 819

「オラ！ スペインへ 見えているのか？」⑨

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅲ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富仁

【2014年 2月8日(土) 午後～夜】

午後からはウニカハ・マラガの体育館へ。ミニ・コバ(U-14)のゲームが雨のために波止場でなくなり、ウニカハ・マラガの体育館で行われた。このゲームを観戦して感じたことは総じて次の通りである。シュートフォームがきれい。特にフォロースルーがすばらしい。また、ドライブが多く、ディフェンスのコンタクトに負けないで強引にゴールへ向かう。スクリーンは使わない。どこのチームもオールコートプレスをしかけ、それに対してオフenseは逃げることなく果敢にボール運びをする。日本の子どもたちの自信のないプレスに対するプレーを想い、プレスアタックを退職後私のミッションにすることを決意した。

どの年代のプレーでも共通して見られたのは、ローポストにボールを入れて、そこから色々な展開を考えること。ディフェンスにおいては、必ずボールマンへプレッシャーをかけ、シュートには必ずチェックすることである。一貫指導の考えたがどの年代層、どのチームにも見事に反映されていた。こんなことがスペインの底力なのだろうか。

15時からの遅い昼食をとり(スペイン人は日本人の時間感覚より3時間遅い)、またウニカハの体育館に戻りU-18、U-15の練習を見学した。常にチームパターンの分解プレーをコーディネーションとからめてウォーミングアップをしていることは大変参考になる。ドリルのメニューも多く、コーチがいかに研究して準備しているかがわかる。

ロス・ギントスから国王杯の行われるアリーナに徒歩で移動。途中スーパーに寄りお土産などのショッピングタイム。歩いている時に今度は腰痛参上。咳も止まらない。スーパーに着いたらフラフラ感も。体調不良のオールスター戦である。

スーパーでのショッピングは遠慮して、一人寂しく「スターバックス」コーヒーショップでコーヒーを飲みながら体調の回復に努めた。目をつむり、腹式呼吸を何度も繰り返し良くなってくれることを念じた。周りにいたスペインの人たちはさぞかし奇異に感じたことだろう。私はスペインまで来て何をやっているのかと情けない気持ち満載だった。

不安ともに、不安のフアンになりながら、アリーナでコパ・デルレイ(国王杯)の準決勝2試合を観戦した。1試合目はレアルマドリード VS サラゴサ。2試合目はバレンシア VS FCバルセロナ。内容はいずれもレアルマドリードとFCバルセロナの圧勝に終わった。レアルのポイントガード、ロドリゲスのドリブルワーク、パスワークにPGの理想の姿を見た。昨年ヨーロッパ選手権をテレビで観ているのに、こんなすばらしいポイントガードがスペインにいることに気がつかなかった。ピカソでないがどこに眼をつけていたのだろうか。まだまだ本物を見極める眼力にはほど遠いようである。

タクシーが依然ストライキのためにバスでホテルへ帰った。バスの中はスペイン人で盛り上がっていて完全アウェイ状態。周りからじろじろ見られている視線を感じる。それにしてもスペイン人はにぎやかである。すでに12時を過ぎている。

すばらしいゲームがコーヒーの役割になり寝つけなかった。同室のN先生はあいかわらず奥様と娘さんにお休みのあいさつで熟睡。私はヒツジを何匹数えたことだろう。